

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ



● 常木らくだ ●

当ブログも開設 10 か月を迎え、16,000PV を突破しました。

ありがとうございます。

ブログを書いている一番嬉しいのは、やっぱり PV 数が増えることです。

初期の頃は、本当に誇張抜きで、一日 5PV とかだったんですけどね。

そしてその 5PV は、自分のアクセス、みたいな。

あかんやん……！

完全に自分しか見てへんやん……！

このブログ、サーバー資源の無駄使いやで……！

(↑ 10 か月前の率直な状況)

まあブログはもはや生活の一部なので、一日 5PV という状況でもやめませんが、アクセスが増えるとやっぱり励みになるのが事実です。

小説投稿に関する真面目な話を書いたり、執筆となんら関係ないド M 体験を披露したり、ひそかにドラクエカテゴリーを作っていたり、まあ色々やっていますが、これからもよろしくお願いします。

そうそう！

ドラクエといえば、7 のリメイクきましたね！

3DS のソフトは、「テリーのワンダーランド」と「スライムもりもり 3」しか持っていなかったんですが、これでようやく、本体のもとを取れるくらい遊べそうです。

ダウンロードの懐ゲーは結構やってるけど、3D 画面の良さは、まだまったく実感できてないもんなー。

まあ、レッキングクルーがリアルな 3D になっても、それはそれで困りますけど。

とにかくそんな感じで、今後も毎日更新で頑張ろうと思います。

タイトルが2行に分かれるほど長いと、通過した時すぐにわかって便利だけど、落選した時もすぐにわかって悲しいね。

↑

落ちたらこう書こうと思って、数日前から前振りしてました。  
だってオイラは、ドMワナビ……！

というわけで、ジャンプ小説は二次落ちだったわけですが、これで通過歴が正式に確定したので、次の投稿作業を進められます。

へへっ！

次はこの作品を、GA 後期に送るんだぜい！

使い回し……というよりか、あの作品はそもそも GA 後期に送るつもりで書いた話なので、ジャンプでどこまで行けるかよりも、GA でどう評価されるのかを知りたいです。

べっ、別に落選したから、ジャンプの文句を言ってるわけじゃないわよ！  
あの作品は、本当の本当に、GA 後期に送るつもりで書いたんだから！

まあでも、こんなに何度も GA、GA って書くと、本命の GA で落ちるフラグが立ちそうなので、やめておきます。

それから、電撃の評価シートが、今日か明日には届くはず。

電撃に送った話は普段やらないことに挑戦した作品で、それ故どんな指摘を受けるのかまったく予想できないので、選評を読むのが怖くもあり楽しみでもあります。

そういうわけで、今日は以上です。

通過した時よりも、落ちた時の方がテンションが高いのは、いつものことだ……！

今日こそ電撃の評価シートくるかなあーと思って、一日中ワクワクしながら待ってたんですが、今日は祝日だから普通郵便の配達がないんですね。(今ごろ気付いた)

一昨年は11月1日、去年は11月4日に届いたんですが、明日も日曜で配達がないので、今年は電撃の評価シートを受け取るのは5日以降になりそうです。

来週こそは、届けてくれよ……！  
よろしく頼むぜ、郵便屋さん……！

さて。  
冒頭で行き詰まったり、プロットを組み直したり、試行錯誤中の新作ですが。  
やっぱり波に乗れないので、今はまだ、コレを書く時期じゃないのかなあ、と。

ただ、自分の中ですごく「見えてる」話なので、その見えている状態を無視して、他の話を書くのはもったいないような気が。

この「見えてる」っていうのは、アニメのようにそのシーンを脳内再生できる状態なんですが、作りたての話はなかなかその段階までいかないので、少しでも見えた話は率先して書くべきだと思うわけです。

やだー。  
らくださん、相変わらず気持ち悪ーい。

そう言ってくださって構いませんが、小説を書かれる方なら、そういう見える状態ってありますよね？

なのでとりあえず、順番メチャメチャになりそうですが、脳内で完成しているシーンから書いていこうかな、と思います。

大丈夫……！  
これは妄想じゃなく、イマジネーション能力だ……！

文章を書くことは、自分の趣味であり義務でもあると思っているので、書けない状態がしばらく続くと、ものすごく焦ってしまいます。

まあ実際は、投稿は「趣味」であって、「義務」ではないはずなんですが。  
だからこそ、書けない状態の時は、無理に書かなくてもいいはずなんですが。

読書をするなり、テレビを見るなり、他の趣味に時間を使えばいいじゃない？

でもやっぱり、趣味に序列なんてないはずなのに、小説投稿を一番上に置いている自分がいるんですよね。

だから書けないと焦るんですけど、そういう義務感がなかったらここまで投稿を続けていないので、焦りも実は必要な感情なのかなあとと思います。

自分の中で、執筆に対するプライオリティは相当高い……というより、他にできることがないから書くしかないんだよ……！

本当にね。

他にいい部分があれば、そこを伸ばそうと思えるけど、完全にゼロですから。

そんな自虐ネタを披露しつつ、GA 投稿用の事務作業を進めていますが、今回は全部一度に出そうかなあ、と。

いつも複数投稿する時は、基本的に投稿時期をずらしますが、GA は「一人で複数投稿してくれた場合は、選考時にかたよらないように、それぞれ別の編集に割り振ってます」とブログで宣言していたので、それなら一緒に出せばいいじゃん、と。

なので、すでに完成している分は、とりあえず机の中で待機状態。

今書いている作品を、11 月中に一緒に送れるように、頑張ろうと思います。

本日、電撃の評価シートが届きました。

ガクブルしながら読んだんですが、今回は割と、好意的なコメントがもらえました。

ホッ……。

今のこの状況で、痛恨の一撃がきたら、どうしようかと思ったよ……。

とりあえず、二つのコメントに共通していたのは、

「全体的にうまくまとまっているけど、伏線不足でやや唐突な印象を受ける」

……なるほど。

インキュラブは、枚数の割にキャラ数とエピソード数が多すぎたので、(特に地の文は) 必要最低限の描写しかしなかったんですね。

そんなわけで、書いている最中から描写不足な自覚はあったので、「確かにその通りだな」と納得&反省しました。

あとは、文末に『次回も是非ご応募ください!』と書いてあって、嬉しかったです。

なんか、コレね。

『次回も是非ご応募ください。』だったら、「ああ、社交辞令か」と思うんですけど。

『次回も是非ご応募ください!』だと、「本当にオイラの作品読みたいの!？」ってなる。

これが、相手をその気にさせるメールテクか……! (違)

まあ単なるリップサービスかもしれませんが、本当に見込みがないと思われてしまった作品の場合は、そんな社交辞令さえも言ってもらえないことを知っているなので、ここは素直に受け取ろうと思います。

よーし!

次回も頑張るぞ!

かなり久し振りに、iTunes で音楽をダウンロード。

そしたら、秘密の質問を設定してくださいという画面が出てきて、その中に「両親が出会った町の名前は？」という項目があって、飲みかけのコーラを吹いてしまいました。

知らねーよ！

ロマンチックすぎるだろ、iTunes ！

他にもたくさん項目があったんですが、ちょっと微妙な質問が多かったですね。

たとえば、「初めて覚えた料理の名前は？」とか。

初めても何も、オイラ料理できねーよ、みたいな。

あと迷ったのは、「憧れの職業は？」。

ダ、ダメだ……！

小説家と書いたら負けだ……！

確かになりたいけど、大事な夢だから、iTunes には教えられない……！

そうだ！

「憧れの職業は？」⇒「ニート」の回答で、iTunes を笑わせてやれ！

まあ、秘密の質問で笑いを取る必要は、まったくないんですけどね。

(っていうか、誰も見てない)

しかしコレ、どれか入力しないと先に進めないとか、やめてくれよ iTunes。

結局「初めて覚えた料理は？」「カレー」で登録しましたが（書いちゃダメじゃん）、得意料理を聞かれて嘘をつく女性の心理がちょっとわかったような気がします。

それにしても、両親の出会いを聞いてくる iTunes は、ただ者ではないと思いました。

こんなに筆が進まないなんて、この作品、もう一生完成しないかも……。

と、思っていたんですが。

冒頭のシーンを変更してみたら、普通に書けるようになりました。

こんなにあっさり解決したってことは、書けなかった原因は自分ではなく、冒頭のエピソードにあったんだな。

悪いのは、オイラじゃねえ！

冒頭のエピソード、お前が全部悪いんだ！

なんか、コレね。

しりとりで例えると、語尾が「ん」で終わっているのに、それに気付かずに次の単語を探していた状態というか。

ともかく、これでようやく発進はできたので、どんどん進めていこうと思います。

あとやっぱり、結果待ちでモヤモヤしていたジャンプで落ちたのと、電撃の評価シートが割と好感触だったことも大きいですね。

心に何か引っかかりがあると、文章を書く勢いが自然と落ちるものですが、それがなくなったことが大きいかも。

まあとにかく、そんなわけで。

一応電撃に送る予定の作品ですが、それだと自分がダラけそうなので、月末の GA に送るつもりで書こうと思います。

今から間に合うかは微妙だけど、目標を決めるのは自由だもん……！



投稿ブログを書いているせいで、というわけでもないんですが、普通に学園小説を書いている時にも、投稿関係の単語が出てくることってありませんか？

たとえば、そうだな……。

「一時」が、「一次」に変換されたり。

「対象」が、「大賞」に変換されたり。

「登校」が、「投稿」に変換されたり。

気分よく執筆している時にそういう単語を見せられると、PCに「忘れるなよ、お前はワナビなんだぜ……！」と嘲笑されている気分になって、どうしようもなくヘコみます。

しかも、意味が通じる文章になってしまうと、余計に激しく落ち込みますよね。

世話焼きヒロインの台詞が、「早く投稿しなきゃ！」に変換されたり。

学校に遅刻しそうになりつつ、オイラの遅筆ぶりを気遣ってくれるヒロインは、マジ天使。

じゃない！

IME、お前だよ！

お前は何年、オイラのPCで働いているんだ！

まあ、ね。

実際のところ、オイラのPCだからこそ、そういう変換になるんだろうけど。

そんなこんなで微妙なテンションになりつつ、早く投稿しなきゃいけないのは確かに事実なので、ひたすら頑張ろうと思います。

でも、小説投稿者さんなら、こういう変換順位になりますよね？

自分だけじゃなく、みんな絶対になると思うんだけどなあ……。

11月もいよいよ中旬。

というわけで、いたばし絵本の翻訳を出してきました。

しかし、去年も心底思ったんですけど。

絵本を訳す上で一番難しいのは、ずばり「漢字の開き」ではないかと。

たとえば冒頭に「stalactites」という単語が出てきたんですが、これをそのまま「鍾乳石」と訳したら、小さい子供は読めないよなあ、と。

かといって、「しょうにゆうせき」と書いたら、それもそれでわかりにくい……。

結局「しょうにゆう石」（←これも違和感あるんですが）にしましたが、絵本における漢字の開きは本当に難しい問題だと思いました。

こういう時、自分で書いた小説だったら、自由に処理できていいんですけどね。

単語に違和感があれば他の言い回しを考えるし、それでも不自然なら文章ごと削除、何ならシーン全部を消すことだってできますからね。

まあ逆に、自由に何でもできる分、何を書いていかわからなくなっ、八方ふさがりになることも多いんですけど。

原文がある難しさと、原文がない難しさ。

それぞれ違う難しさがあって、それと同時に、違う面白さがあると感じました。

そんなことを考えつつ、いたばし絵本は投稿完了！

この賞は参加が有料なところがアレなんですが、去年も今年もとても楽しかったので、来年もまた参加しようと思います。

冒頭で詰まっていたクールな変人の話ですが、ようやく復調し、どうにかこうにかやっと 30 枚ほど書けました。

しかし、この話。

ギャグ寄りにする予定だったのに、想像以上に、真面目な作品に仕上がろう。

まあでも、その方がいっか。

自分の今までの経験からすると、ギャグで攻めた作品やエロで攻めた作品は概して評価が低く、真面目に書いた作品の方が通過しやすい感じなので。

もちろんラノベを書いている以上、適度なギャグやエロは必要だと思いますが、それだけが作品の柱になっちゃダメだな、と。

ギャグやエロはあくまでも要素の一つで、それを取っても作品がちゃんと存在する、そういうストーリーを書かなきゃいけないな、と。

なんか言葉にすると当たり前なんですけど、落ちた作品と通過した作品を比べてみると、そこが一番大きな違いなんじゃないかと思います。

これは、評価シートでも言われました。

ギャグやエロだけをテーマに、長編小説を書くのは難しいよ、と。

それプラス、読み手を惹きつけるドラマがなきゃいけないよ、と。

あれは確か、電撃にワナビ戦を送った時かな。

ワナビ戦はギャグ以外に何も無い話だったので、そういう指摘をされたのだと思いますが、このコメントは本当に真実だと思います。

そんなわけで、今書いている作品も、ストーリー重視で頑張ろうと思います。

当方はドンキーコングがタルを転がしていた元祖の時代からファミコンで遊んでますが何か？

いや、本当にね。

今やマリオカートやマリオテニスでレギュラーキャラとなっているドンキーコングですが、あのサルがここまで成長したのかと思うと、本当に胸が熱くなる思いです。

という、前置きはさておき。

冒頭部分であんなに詰まっていたのに、そこから脱した今は、割とスムーズに書けている今回の作品。

それで思ったんですけど、やっぱり冒頭は難しいな、と。

途中まで書いてしまえば、それまでの流れがあるから、そんなにパワーを使わなくても話を進められるんですよ。

でも冒頭は、キャラやら世界観やら舞台背景やら、描写しなきゃいけないことがたくさんあるので、途中の部分に比べるとものすごくエネルギーを使うなあ、と。

要は、小説執筆は「タル」だなと。

止まっているタルを動かす時は力を使うけど、すでに転がっているタルを動かす時は、ほとんど力を使わなくていいですよ。

そんなに押さなくても進むし、ちょっと触れただけで、簡単に方向だって変えられる。

だから何ってこともないんですが、何となくそう思ったので、こうしてブログに書いてみました。

とにかく、難しい冒頭は終わったので、どんどんタルを転がしたいです。

先週の土曜日に、またまた性懲りもなく、日本語検定を受けてきました。

まあね。

なんでまた受けているかというと、ぶっちゃけ前回落ちたからなんですが。

べっ、別にいいんだよ！

オイラは語学試験が好きだから、何度も受けられてハッピーだぜ！

そして会場は、またしても、ローカル色が半端ないディオス北千里でした。

まあでも、北千里駅の「行き止まり感」は、割と嫌いじゃないですけどね。

それにしても、誤変換を探す問題は、受けるたびに本当に燃える……！

たとえば、

「全員が一世に駆け出して場内は混乱に陥った」

こういう文章が書いてあって、この問題の場合は「一世」を「一斉」に書きかえるわけですが、日常的に誤変換と戦っている身としては、この問いは本当に燃えたぎるものがあります。

任せろよ……！

ワナビのプライド、見せてやるぜ……！

そんなこんなで、前回夏に受けた時は、誤変換の問題だけ全問正解でした。

(まあ、他の部分ができなくて落ちましたが)

あと日本語検定は、今時珍しく筆記式なので、その部分でも燃えますね。

取得してどうこうしようってわけでもないですが、趣味の一環として、これからも語学試験は積極的に受けようと思います。

カレンダーに「チケット二次発売」と書き込もうとしたのに、「チケット二次発表」と書いてしまったオイラはワナビのかがみ。

くそっ……！

「二次」って書いたら、自然と「発表」って単語が出てきちゃった……！

とまあ、そんなこんなで。

執筆中の作品もいい具合に波に乗りつつ、「これでいいのかな」という不安もあったり。

小説を書き始めた初期の頃は、「他人に読まれて評価される」という意識がなかったので、自分の好きなものを好きなように書いていたんですね。

でも今は、中途半端に投稿歴ができた分、「この作品はこれでいいのだろうか」という不安を執筆中にもものすごく感じます。

読み手の目を意識するようになったのは、成長でもあり。

しかし、自作に自信を持てなくなったのは、弊害でもあり。

まあでも、これでいいかどうかというのは、投稿してみなきゃわからないことなので、結局はひたすら書くしかないんですけどね。

自分で「これでいい」と判断しても、送ってみたら落ちるかもしれないし。

その逆もあるかもしれないし。

そんなわけで、まずは自分の感性を信じて、作品の完成を目指そうと思います。

オイラ、この作品を今月中に書き上げて、クリスマスに北海道へ行くんだ……！

(↑ 締切りに間に合わないフラグ)

ワナビは世間から不当な差別を受けている！！

いや、本当にね。

ワナビには夢があるから、正直偉いと思うんですよ。

心底なりたい職業があって、なるための努力をしている。

しかもその職業は、少年少女に夢を与える、とってもクリエイティブな職業。

なのにどうして、世間一般の人々は、小説投稿者を見下すんですかね？

「公務員試験の勉強してる」って言ったら、「すごい、努力家だね！」ってなるのに。

「小説投稿してる」って言ったら、「へえー……（非難の目）」ですもんね。

誰に強制されるでもなく、100枚以上も文章が書けて。

そして、すぐに結果が出ずとも、それを何年間も続けられる。

これって特殊技能と言っていいと思うし、本気じゃなきゃ絶対にできませんよ。

だからこそ、世間に差別されようが、ワナビであることに誇りを持とうぜ！

オイラ達は、少年少女に夢を与える、特殊技能の持ち主なんだ！

と、日記に書いたんですが、日記に書いても自分しか読まないの、こうしてブログにも書いてみました。

なんだか愚痴っぽくなりましたが、本当に。

ワナビには夢があるから、夢のない人よりも、絶対に偉いと思います。

それにしても、このブログ……。

雑談カテゴリだけが無尽蔵に増えていくのは、どうにかしたいですね……。

そういえば、ふと気付いたんですが。

今書いている作品は、自分にしては珍しく、失恋エンドだなあーと。

いや。

珍しいっていうより、本当に初めて書くかも。

いつも恋愛要素を入れる時は、ラストで明確に両思いになるか、そうじゃなくてもいい雰囲気終わるか、そのどっちかだったんですよね。

しかし自分がそういう話を書くと、「予定調和」「あっさり両思い」「ドキドキ感が足りない」と言われてしまうので、今回はあえて、恋愛成就フラグを途中でバシバシ立てつつ最後に失恋する展開でいこうかと。

一度なんか、「プロローグを読んだ段階でラストが見える」と言われたしなあ……。

(まあ確かにその話は、ストーリーが単純すぎたんですが)

というわけで、まだ中盤ですが、失恋エンドを書くのが楽しみ。

もちろん評価シートに逆ギレして失恋展開にするわけじゃなく、その話は失恋した方が希望のある終わり方になるからそうするんですが、とにかく初の試みなので書くのが楽しみです。

ただ一つ心配なのは、GAっぽくない点……。

GAって何となく、失恋エンドよりも、両思いエンドを好みそうだし……。

まあでも、いっか。

「神父見習いの(略)」はGAに送りたくて書いた作品だけど、こっちはテイストがまったく違うので、両方送って同じ賞でどう評価されるのかも楽しみです。

まあとにかくそんなわけで、たぶん月末には間に合うと思いますが、あと二週間気を抜かずに頑張ろうと思います。



この前受けた日本語検定の注意事項に、「受検中はひとりごとを言わないでください」と書いてあったんですが、受検中のひとりごとってこんな感じ？

「よーし、もらった！ この一問目、わかるぜ！」

「うおっ、これは勉強してねえ！ ちくしょう、自信ないぜ！」

……………。

黙って解けよって感じですね。

ってというか、ひとりごとを言っちゃいけないって、当たり前だ！

あと「身代わり受検をしてはいけません」とありましたが、それも当たり前だ！

しかし、日常生活では縁のないひとりごとですが、小説の中では多用しますよね。

主人公に「学校行くか」とか「風呂入るか」とか言わせたりしますが、わざわざそんな宣言をしてから登校したり風呂に入ったりしたことは、少なくとも自分は一度もありません。

まあでも、ひとりごとって、便利ですよ。

地の文が多いと読みにくいから、セリフにできる部分は、極力セリフに割り振りたいというか。

まあとにかく、日本語検定の話に戻りますが、答え合わせをしたら前回よりは正解できていたので、今度こそちゃんと合格できていたらいいなあ、と思います。

え？

日記に手応えを書くのは、不合格フラグだって？

そんなの構うもんか……！

むしろフラグを立てたくて、わざわざ書いてるんだぜ……！

カレンダーに「チケット二次発表」と書き込んだにもかかわらず、そのチケットが買えずに落ち込んでいる常木らくだのブログへようこそ！

っつか、敗北感パネェ……。

ブラウザ4つ開いてF5アタックしたんだけどなー……。

具体的には「IE」「FireFox」「Chrome」「Opera」を立ち上げて、一番早く繋がったブラウザで勝負しようと思ったんですが、4つともまったく繋がらないなんて嘘だと言ってよバーニィ！

あ、もしかして、逆効果だった？

たくさん立ち上げたから、PCの動作が重くなったの？

うーん……。

正しいF5アタックって、どうやればいいんだろう……。

やっぱり、ほら。

長年ワナビをやっている関係上、発表日にF5連打することはよくあるんですが、それはただ単に連射すればいいだけなので。

それと違って取りにくいチケットを購入する場合は、繋がった後の操作とかも関係してくるので、自分はまだまだF5アタックの素人だと痛感させられました。

仕方ねえ！

次はオークションで、めげずにF5アタックだ！

そんなこんなで、小説投稿となんら関係ない話題でしたが、今日は以上です。

それにしても、「キャメルに告ぐ、F5アタックを開始せよ」とか言うと、スパイ映画みたいで格好いいですよ。

現在執筆中の作品ですが、ようやく7割ほど書けました。

それにしても、今回は失恋エンドだとわかっているのに、途中のイチャラブシーンを書くのが逆にすごく楽しいですね。

ぶっ、かわいそうに……！

コイツこの後、ヒロインに振られるのによ……！

みたいな、ね。

成就エンドを書く時とはまた違う、そういう歪んだ楽しさがあります。

しかし自分は、どうして自作の主人公に、こんなに悪意を持ってるんだ？

ドS？

まさかオイラって、本当はドSなのか！？

まあでも、無残に振られる主人公に感情移入して楽しいってことは、やっぱり鉄板ドMで間違いないと思います。

あと、あんまり関係ないですが、自分は国際郵便の「EMS」を「ESM」だと思っていて、郵便局で「ESMでお願いします！」と叫んだことがあります。

窓口のお姉さんは、「かしこまりました、EMSですね？」と何気なく訂正してくれましたが、あの時の恥ずかしさといったら本当にもう……。

べっ、別にSM好きなわけじゃないんだから！

ちょっと間違えただけなんだから、くれぐれも勘違いしないでよねっ！

とまあそんなわけで、11月も残り2週間ですが、引き続き執筆を頑張ります。

肝心の失恋シーンまで、あともうちょっとだ……！

一口に小説投稿といっても、色々な作業がありますが、皆様が好きな作業は何ですか？

自分の場合は、こんな感じです。

- 【1位】 タイトル決め
- 【2位】 章タイトル決め
- 【3位】 印刷

しかし今回の作品は、章タイトルをまだ一つも決めておらず、タイトルにいたっては仮題の状態で書き続けているという、極めて異例の事態……。

それよりも、早く本文を書かないと！

章タイトルは、最悪なくとも投稿できるけど、本文なかったら投稿できないし！

まあ要は、タイトルに気を回せないほど、時間的に切羽詰まった状況なわけです。

このブログの更新も、さり気なく遅れてるしね！

現実の日付に迫り着くためには、どっかで一気に3日分更新しないと！

あと、好きな作業を書いたので、嫌いな作業も挙げておきましょう。

- 【1位】 あらすじ
- 【2位】 プロット
- 【3位】 本文執筆

あ、あれ？

この3つって、どう考えても、小説執筆の根幹だよな？

つまりオイラって、本当のところは、小説執筆が嫌いなの？

まあでも、嫌いなのにやめられないあたりが、安定したドM……！

というわけで、またそのオチですが、今日は以上です。

月末に間に合うように、ファイトだ自分……！

執筆を始める前に大まかなストーリーは決めるものの、いざ実際に書いてみると、まったく違う内容になることってよくありますよね。

キャラがひとり歩きする、とか。

ストーリーがひとり歩きする、とか。

そういう表現をすると逆に安っぽく聞こえてイヤなんですけど、「このキャラはこういう性格だから、この状況ではこう行動するだろうな」

というのがあって、それがプロット段階ではよく見えないんですけど、実際に書いてみると明確にわかってくるというか。

その辺のジレンマを、皆様はどうしてますか？

自分の場合は、それでもプロット優先で書いていたんですが、ある選評で「このキャラがこの発言をするのは不自然じゃない？」と指摘されて、ハッと目が覚めた感覚になったことがあります。

そんなわけで、それ以降は、その場の流れ優先で書くようになりました。

しかしそうすると、場合によってはストーリーの辻褄が合わなくなったりするので、それもまた大変なわけで。

時間があればゆっくり考えるからいいんですけど、出したい締切りの直前だったりすると、時間がなくててんやわんやの事態に陥るわけです。

で、結局何が言いたいかというと、今まさしくその状態になっていて、ブログの更新が遅れていると言いたいんだ……！

まあでも、書きたいことは多数あるので、ちょっとずつ追いついていこうと思います。

傷心の主人公が、星明かりに照らされながら、イチョウ並木の下を無言で歩く……。

そんな切ないシーンを書いている最中、「胃腸並木」というとんでもない誤変換が出てきて、飲んでいた紅茶を吹きそうになりました。

胃腸並木……！

こんな切ないシーンで、消化器官を優先するとは、さすがオイラの PC だ……！

そしてその直後に、星明かりが「☆明かり」に変換される、誤変換のコンボ攻撃。

何なんだー！

つのだ☆ひろじゃないんだぞー！

まあ真面目な話、シーン替えて「☆」マークを使うことがあるので、それでこんな変換になったんでしょうね。

それにしても、切ないシーンだったのに、一気に雰囲気ぶち壊しだ……。

むしろもう、違う意味で切ないよ……。

オレの愛用のパソコンの誤変換が残念すぎる件。(ラノベのタイトル風)

とはいえ、そんなことで執筆をやめるわけにはいかないので(当たり前)、残りのシーンを頑張って書こうと思います。

今回は 100 枚の予定で、現状 80 枚書けたから、残り枚数は 20 枚！

一日 5 枚書けば、四日で終わる！

そんな計算をしつつ、しかし見直し期間を最低でも三日は取りたいので、慢心せずに頑張ろうと思います。

ドリカムの名曲「LOVE LOVE LOVE」の歌詞より

ねえどうして　すごく愛してる人に  
愛してると言うだけで　涙が出ちゃうんだろう

\*\*\*\*\*

この歌詞の内容について、どうして涙が出ちゃうのか一人で真剣に考えてみて（ヒマ人かよ）、こんな結論に達しました。

それはずばり、「愛してる」という五文字（書いたら四文字ですが）に、ものすごくたくさんの感情が詰まっているから。

たとえば、その人を好きになって、嬉しかったことだったり。  
逆につらかったことや、耐え忍んだことだったり。

そういう諸々の感情が「愛してる」という言葉の裏にあるから、口にするだけでそれこそ万感の思いになるんじゃないかと。

要は、積み重ねが大事ですよ。

たとえば全然知らない映画の冒頭に「愛してる」ってセリフがあっても、そこには何の積み重ねもないから、「へえー、そうなんだ」くらいにしか思えません。

だけど、その映画にひき込まれて、ラストにそのセリフが出てきたら、そこまでの積み重ねを思い出して感動できるわけで。

もちろんこれは「愛してる」だけじゃなく、すべての言葉に言えることだと思いますけど、そのセリフにどれだけたくさんの感情を詰め込めるか。

その部分を意識して、言葉に感動を込められるよう、文章を書いていきたいと思います。

今回書いた作品は、ものすごく「読んで欲しい作品」に仕上がりました。

実を言うと。

今までは、自作に対して思うことは、「一次通過して欲しい」だったんですよね。

どうして小説投稿をしているかという、それはやっぱり受賞して本を出したいからで、そのためにまず必要なのは一次通過することなので。

でも今回は、通過はまた別次元の問題として、ただひたすら「読んで欲しいな」と。

今の自分が大切だと思っていることを、すごくたくさん詰め込んだ内容になったので。

だからこそ。

読み終わった後「共感できた、自分もそう思う」と言ってもらえたら、それはものすごく嬉しいし、「共感できないし、自分はそう思わない」という返事が返ってきたとしても、それはそれで読んでもらえて嬉しいというか……。

これまで、長年投稿を続ける中で、色んな柱に「寄せた」作品を書いてきました。

少年系に寄せたり、ギャグに寄せたり、一般小説に寄せたり、萌え系に寄せたり、ラブストーリーに寄せたり。

でも今回は、どこにも寄っていない「これが自分の文章」と思える内容なので、仮に常木らくだの作品を読みたいと思ってくれる人がいるとしたら、この作品を渡してこの作品の印象を持ってもらいたいなと思います。

まあね。

こんなこと堂々と書いてる割に、まだ完成してないんですけど！（爆）

これだけ自信ありげな発言をしておいて、結局間に合わずに投稿できなかつたらバカみたいなので、残り一週間全力で取り組もうと思います。



突然ですが、自分が一番好きな小説は、コバルト文庫の「マリア様がみてる」です。

最初は「百合には興味ないや」と思って手に取らなかったんですが、自分と感性の合う書評ブログの執筆者さんがマリみてを大絶賛していたので、それならどんな作品なのか一巻だけでも読んでみようかな、と。

そこから一気に好きになって、シリーズ合計で50冊くらいあるんですが、全巻購入したイチオシの作品です。

何が好きって、感情描写の素晴らしさと、キャラの書きわけの秀逸さですよ。

生徒会のメンバーだけでも、一巻の初期段階で8人もいて、しかも女子校なので全員が女子にも関わらず、個性が一人も被っていない。

おまけに2巻3巻と読み進めていくと、全員にスポットライトが当たる内容になっていて、「この子どうでもいいや」って扱いのキャラが一人もいなく、その点がものすごく好きだし見習いたい部分です。

あえて言うなら、描写過多で展開が遅いと感じる部分もあるんですが、それだけ世界観の作り込みが丁寧だからこそ、安心して作品世界にどっぷりと浸かれるわけで。

そんなわけで。

自分はマリみてを執筆の教科書にしているし、最終的に辿り着きたいと思っている領域です。

もちろん有名作品なので、ここで薦めても「今さら」って感じかもしれませんが、「ただの百合でしょ？」と思って読んでいない方には全力でオススメしたい作品です。

とにかく、マリみての魅力はとても一回では書き切れないので、今後時間をかけて一冊ずつ紹介していこうと思います。

今取り組んでいる作品ですが、最終エピソードが書けました。

しかし、これなあ……。。

一応失恋している割には、全然悲しくないなあ……。

なんてこったい、振られちゃった！

こうなりゃ男に磨きをかけて、再チャレンジするしかないな！

とりあえず髪型を変えるために、今から床屋へ全力ダッシュするぜ！

みたいな感じ。(あくまで例えですが)

こうして書くと、主人公がものすごく 頭悪そう、前向きですね。

そして今回の話を書いたことで、自分はたぶんディズニー映画級に、ハッピーエンドしか書けない人間なんだと悟りました。

ディズニー映画のハッピーエンドフラグは、決して折れることがないですからね。

『人魚姫』だろうが、『美女と野獣』だろうが、『ノートルダムの鐘』だろうが、「死亡フラグ？ 何それ、食えんの？」みたいな。

しかしディズニーの『ノートルダムの鐘』は、主人公が失恋しているのにすごく希望のある終わり方になっていて、そこまでメジャー受けする内容ではないと思いますが個人的に大好きです。

そう……！

自分もそんなエンディングが書きたかったのに、いかんせん主人公の性格が……！

まあとにかく、最終エピソードは書けたけど途中のエピソードを飛ばしたので、執筆はまだ終わっていないギリギリのこの状況。

今週中に無事仕上げられるよう、引き続き頑張ろうと思います。

今書いている作品ですが、108枚で落ち着きました。

なんてこったい！

煩悩の数だけページ数があるじゃないか！（だから何だ）

しかし自分は中編書きで、普段は80枚の作品を書いているので、108枚はとてつもなく長丁場に感じました。

短い時なんて、それこそ60,000字で終わるのに、今回は100,000字近くあるしなあ。

そしてさらに、見直ししている間に、あと5枚くらい増えそうな予感。

見直し中、「説明不足だから足そう」と思う部分はあるけど、「説明過多だから消そう」と思う部分はほとんどないので、どうしても枚数が増えるんですね。

あと自分の場合、画面が真っ黒になるのがイヤなので、セリフを短く切って下の方にスペースを作ったり。

まあでも、108枚なら大丈夫か。

それらの作業を加えても、上限には全然あたらないので、思う存分見直そうと思います。

しかし……。

見直しも時間がかかるから、果たして四日で足りるのか……。

それと、GAはデータ投稿だけど、紙状態での見直しもしたいから、結局印刷作業も必要になってくるわけで……。

そんな感じで、まだまだ気は抜けませんが、あとちょっと頑張ろうと思います。

頼むぜ、自分！

## 【1】 マリア様がみてる - 2012.11.27 Tue

---

### 【1】 マリア様がみてる

ヒロインの祐巳（ゆみ）が、憧れの先輩である祥子（さちこ）から姉妹の申込を受けて、しかしとある理由からそれを断る……という展開の物語。

この巻の何が好きって、それはやっぱり何といっても、祐巳が祥子のロザリオを受け取らないところですね。

いわば憧れの先輩から告白された状況なんだから、普通の作者なら受け取る展開を書いてしまいそうなものなのに、そうならないのがマリみてのいいところだと思います。

後ろの方の巻で、祐巳と瞳子が姉妹関係を結ぶ場面でもそうですが、ロザリオを差し出された理由に納得がいかなければ、自分を傷付けてでも好きな先輩からの申込を断る……。

泣けますよ！

祐巳も強いし、瞳子も強い！

マリみてのキャラは、一見普通の女の子っぽいのに、みんな信念があって大好きです。だからこそ、晴れて姉妹関係が成立した時に、それだけ深く感動できるんですよね。

あとは終盤の、祥子と柏木さんが揃っていなくなるシーンの緊迫感。

その段階では別に事件が起こっているわけでもなく、ただ単に二人が揃っていなくなっただけなのに、個々のキャラクターの反応を丁寧に書けば、これだけ緊迫感のあるシーンにできるんだなあ、と。

それから、最後のシーンのキラキラした感じも大好きです。

とまあこんな感じで。

基本的にあらすじを書かずに、ひたすら読んだ感想を書いていくので、完全にひとりごとっぽくなりそうですが、これから不定期にマリみて語りをしていこうと思います。

どう考えても見直し時間が足りないぜ！

自分は「Word」⇒「PDF」⇒「紙」と三段階に見直しするんですが、今回はどう頑張っても紙までは辿り着けない状況なので、印刷せずにそのままデータを用意して送ることになりそうです。

仕方ないな……。

今週末の土日に印刷して、一人で寂しく見直そう……。

でも、送り終わった後に見直して、微妙なテンションになりそうですよね。

うっかり誤字脱字なんか見つけたら、直せない分余計にヘコんでしまいそうだし。

まあね。

実際は誤字の一つ程度で結果が変わることは稀で、落ちる時はもっと根本的な理由で落ちるんだと思いますが、それでも「間違えたー！」とヘコむのがピュアなワナビ心ってもんですよ。

それにしても、今回の作品には、本当に頑張っただけです。

自分自身では、うまく書けたと思うけど。

自分の評価と賞的な評価は、たいてい一致しないというのが、小説投稿のトラップであって。

まあとにかく、あと二日あるので、せめてPDFで見直しできるように頑張ります。

あと今回も、「これ、通ったらどうなんだろう……」というタイトルなので、リストで目立てるようには是非とも通過したいところです。

もはや受賞ではなく、通過リストで目立つことが、リアルに最大の目標になっている。

そんな「らくだ図書館」を、今後もよろしく願います。

## 激烈カンダタ戦 - 2012.11.29 Thu

---

執筆中、いつもすごく思うんですが。  
中盤の山場を書くのって、さじ加減が難しいですよ。

ドラクエ3で例えるなら、カンダタ戦をどう書くか。

カンダタはその時点で戦う敵としては強いんですが、最終的にバラモス戦を書かなきゃいけないことを考えると、書き手としてはどうしても描写が控えめになってしまうわけで。

後々を思うと、カンダタ戦ですべてを出し切るわけにもいかず……。  
かといってザコ敵ではないから、そこはしっかり差別化したい……。

そんなことを繰り返し考えつつ、中盤の山場を盛り上げきれなかった点が、今回書いた作品の残念な部分でした。

まあ実際はバトル物ではなく、カンダタは例えですが、中盤の描写って難しいですよ。

自分では「最後の山場と差をつけるために控えめに描写してる」ってわかるからいいんですけど、作品を人に読んでもらった時に、「表現力がないからこんな中途半端な描写なんだ」って思われてしまったらイヤだなあ、と。

とにかく、今回の作品を書いたことで課題は見えたので、最高に盛り上がるカンダタ戦を追求しつつ、次の作品では中盤の描写に力を入れたいです。

しかし、次に送るのは、どこになるのか……。  
冬の賞には投稿する予定がないから、電撃に送る作品を書き溜めようか……。

まあ11月は執筆以外のことを後回しにしてしまったので、たまっていたことを消化しつつ、ゆっくり考えてみようと思います。

というわけで、GA に投稿完了！

すでに何度もしつこく書いている通り、自分はこのラノで5作全滅するようなヘタレワナビですが、電撃・SD・GA 後期は3年連続で通過しているので、意地でも一次通過したいのが正直な気持ちです。

そんなことを考えつつ、近くの郵便局へ向かったら。

いつもは誰もいない郵便局なのに、今日に限って、入口の自動ドアが開くほど行列が。

もしかすると、みんなGA投稿者か！？

ちくしょう、ライバルが多すぎる……！（違）

まあとにかく11月中に発送できたし、GAはタイトル入りの受領メールをくれるから、「ちゃんと届いたかな？」という心配もいらぬし、これで安心して12月を迎えられそう。

ちなみに今回は、本命作品と一緒に、幻の「ザビエル様」も送りました。

結果はほぼ確実に落選だと思いますが、GAは一次落ちしても評価シートが届くので、あのバテレン萌え作品にどんなダメ出しがくるのか、正直言って今からワクワクしています。

あの作風を、否定されたい……！

っていうか、こんなドMワナビに誰がした……！

まあでもザビエル様だけではなく、真面目に書いた作品も一緒に送ったので、2月15日の一次発表を楽しみに待とうと思います。

っていうか、間に合ってよかった……。

結局のところ紙での読み直しはできませんでしたが、それは明日&明後日にひっそり行うとして、とりあえず今夜は投稿後の解放感に浸っていようと思います。